

(4) 3年次

この年丸山は、大学卒業後も指導を受けることになる南原繁（1889～1974、画像）の「政治学史」講義を受講する。もっとも、講義自体は丸山の期待からは外れたものだった。開口一番「この講義には、哲学にたいして自発的な関心をもつ学生だけ出席してほしい」と言い、政治を「文化的創造の業」と言い切る南原の講義は、マルクス主義をくぐり、政治を科学的認識の対象と考えていた丸山には理解しがたいものだった。し



かし逆に、このようなことを言う南原の思想を見極めたいと強い関心を抱くに至った。そこで、ヘーゲルの『歴史哲学序説』を講読する南原のゼミに参加している。また、政治学や法学だけでなく、経済学や社会学にも関心をもつようになる。法学部で中田薫「法制史」、経済学部で大内兵衛「財政学」や矢内原忠雄「殖民政策」などの講義を受講したほか、経済学部・文学部に進んだ一高時代の友人たちとマルクス経済学関係の書籍を読む読書会を行った。

丸山は当初、卒業後は記者になり海外で勤務することを希望していたが、法学部助手募集の掲示を観て心が揺らぐ。南原に相談したところ、日本の伝統思想・中国の古典政治思想の研究を勧められ、研究生生活に入ることを決意した。